

●浜の話題

- 3月1日、三和漁協城ヶ島支所は磯焼け対策の一環として、漁場モニタリング調査を実施しました。同支所では、これまで漁業者とダイバー等の地元関係者が食害生物のアイゴやウニ類の除去を行い、磯焼けしていた藻場が回復してきました。今年もカジメが高密度で繁茂している様子が観察でき、地道な活動の積み重ねが藻場の回復と維持に繋がっています。一方で、昨年から調査地点によってはサンゴイソギンチャクの群落が見られるようになり、藻場への影響が懸念されることから、今後も継続的な調査が必要との結論に達しました。



豊かなカジメの藻場



サンゴイソギンチャクの群落

- 3月10日、3月10日、今年1月に漁業士に認定された横須賀市東部漁協鴨居支所所属の山崎青年漁業士（洗丸）は、新たにアカモクの収穫・出荷に取り組むため、普及指導員から成熟状況を見極めて収穫するなどのアカモクの収穫について指導を受けました。アカモクは近年、相模湾で減少する一方で東京湾では増加する傾向にありますが、収穫の際は種を有する雌株を残す等、資源管理のために留意する必要があります。



海面を覆うように繁茂するアカモク



アカモクを採取する山崎青年漁業士

- 3月11日、小田原市漁協刺網部会は総会を開催しました。総会では、令和2年度の事業報告と令和3年度の事業計画を承認し、令和3年度は磯根漁場保全対策の一環として、海藻を食害するアイゴの商品化を新たに検討することとなりました。また役員改選が行われ、江森正典さん（海真丸）を新部長に選任しました。

○ 3月15日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会の杉山武会長（丸八丸）が、日本経済新聞から取材を受けました。当日は記者が会長の船に乗って漁の様子を撮影し、下船後、協議会の成り立ちやしらす漁業者の6次産業化の取り組み等についてインタビューしていました。



取材を受ける杉山会長